

Title	中国語の否定について
Sub Title	On the negation of Chinese
Author	李, 貞愛(Li, Zhen'ai)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2008
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 言語・文化・コミュニケーション (Language, culture and communication). No.40 (2008. ) ,p.173- 190
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032394-20081220-0173">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032394-20081220-0173</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 中国語の否定について

李 貞 愛

## 0. はじめに

言語の有する主な機能は伝達であり、伝達は情報の交換行為として捉えられる。そして情報の交換において、人はある情報に対して肯定したり、否定したりする。では、人はある情報に対し、どのように否定をしているのか。まず以下の例文を見る。

- 1) A: 汉语真难。  
B: 汉语不难。  
(A: 中国語は本当に難しいですね。)  
(B: 中国語は難しくありません。)
- 2) A: 汉语真难。  
B: 难什么难?  
(A: 中国語は本当に難しいですね。)  
(B: 何が難しいですか?)

上記二組の会話において、1) における B の発話<sup>1)</sup> は否定詞“不”を用いて A の発話内容に対し否定しているが、2) における B の発話には否定詞“不”が現れていない。しかし、2) における B の発話は A の発話内容に対する否定として解釈される。2) における B の否定は“什么”(「なに」)という疑問詞を用いて実現されているが、このような否定方式は否定詞を用いないにも関わらず、相手<sup>2)</sup>によって提示された情報に対して否定を表すことができるのである。

本稿は、主に 2) の B のような形式に焦点を当てながら中国語の否定について考察する

ものである。具体的にはまず、言語による否定を形態的特徴から分類し、そして否定の各レベルを概観・分析した上で中国語の否定の全体図を明らかにする。そして最後は言語類型論の視点からその普遍性と多様性を探る。

## 1. 言語による否定——形態的特徴から

言語は形と意味が結びついたものであるが、その対応関係は必ずしも一対一ではない。否定について言えば、形態上否定詞を用いて否定を表す場合もあれば、否定詞を用いず、別の言語手段で否定を表す場合もある。

### 1.1 否定の形式

#### 1.1.1 明示的否定

本稿では前掲の例文1)のように、否定詞を用いた否定を「明示的否定」と呼ぶ。否定詞とは、いろいろな品詞にまたがる否定要素を言う。現代中国語の場合、例えば、否定副詞として用いられる“不”“没有”“别”“不用”“甭”，名詞の前につき否定を表す動詞の“没有”など、一部に限る<sup>3)</sup>。下の例文に示すように、文中にこれらの否定詞が用いられればいずれも否定であることが明瞭である。

3) 我今天不去学校。

(わたしは今日学校に行きません。)

4) 她没有说一句话。

(彼女は一言も話しませんでした。)

5) 别灰心，继续努力！

(がっかりしないでください。これからも引き続きがんばってください。)

6) 这事儿你就甭操心了！

(このことならもう心配しないでください。)

7) 你不用再说了，我都明白了。

(これ以上言わなくてもいいです。もうわかりましたから。)

8) 我没有特别的意思。

(私は何も特別な意味はありません。)

### 1.1.2 非明示的否定

1.1.1で述べた「明示的否定」に対し、本稿では否定詞を用いない否定を「非明示的否定」と呼ぶ。このような形式は文中に上述のような否定詞が現れていないが、否定的意味を表すことができる。中国語において「非明示的否定」はさらに以下の三つのタイプに分けて考えられる。

#### 1.1.2.1 暗示的否定

本稿では否定的意味が内蔵されている語彙を用いて表す否定を「暗示的否定」と呼ぶ<sup>4)</sup>。このような否定形式（語彙）は否定詞ほど目立たないが、それぞれの語彙にすでに否定的意味或いは否定的判断が含まれているのを特徴としている。

9) 小王今天缺席。

(王さんは今日欠席です。)

10) 他拒绝了大家的邀请。

(彼は皆さんの誘いを断った。)

11) 对不起, 很难满足你的要求。

(ご希望に添えなくてすみません。)

例文9) に用いられている“缺席”(欠席)は語彙的に“不来”(来ない)という否定的意味が内蔵され、10)の例文における“拒绝”(断る)も「受け入れない」という否定の意味が含まれている。そして例文11)の“很难”はフレーズであるが、「～することができない」という否定の意味を含んでいる。

#### 1.1.2.2 潜在的否定

現代中国語において、上述の「暗示的否定」以外、本稿の最初で挙げた用例2)のようなタイプの否定もある。本稿ではこれを「潜在的否定」と呼ぶ。このような形式は「非明示的否定」としてまず文中に否定詞が現れていない。また1.1.2.1で述べた「暗示的否定」のように否定的意味が語彙に内蔵されてもいない。しかし情報の伝達においては否定の意味と機能を有している。例文をいくつか挙げる。

- 12) A: 他长得真帅。  
 B: 帅什么帅?  
 (A: あの人本当に格好いいですね。)  
 (B: 何が格好いいのよ。)
- 13) A: 我明天还想去……  
 B: 行了行了, 早点儿睡吧。  
 (A: 明日行きたいところは……)  
 (B: もういい。早く寝なさい。)
- 14) A: 对不起, 我来晚了。  
 B: 下这么大的雨, 你还真来了。  
 (A: ごめんなさい。遅くなりました。)  
 (B: こんな大雨のなか, 本当に来てくれましたね。)

例文 12) における B の発話 “帅什么帅” は実際には「格好よくない」を含意しており, A の発話内容である「あの方は格好よい」に対する否定として解釈できる。13) の例文における B の発話 “行了行了” は「もう言わなくてよい」という意味として解釈できるが, これは A の「話している」行為に対する否定として捉えられる。そして例文 14) に用いられている “你还真来了” は B が発話前に「こんな大雨のなかあなたが来ると思わなかった」という想定<sup>5)</sup> を持っていたことを含意するが, この話し手 B の想定が現実である「相手がこんな大雨のなか来た」によって否定されていると考えられる。つまり 14) の B の発話は A の発話内容に対する否定ではなく, 話し手 B 自身の想定に対する否定として捉えられる。このように例文 12) B 13) B 14) B は否定の意味と機能を有するが, それぞれの否定は “什么” “行了” “还” によって実現されたと言えよう。

### 1. 1. 2. 3 完全文脈依存的否定

これまで述べてきた「暗示的否定」と「潜在的否定」はいずれもある一定の形式でもって否定を実現している。しかし次に述べようとするタイプは一定の形式を持たない否定のタイプ, 即ち無標の平叙文——で表す否定である。

- 15) A: 她是你女朋友吧?  
 B: 她是我妹妹。

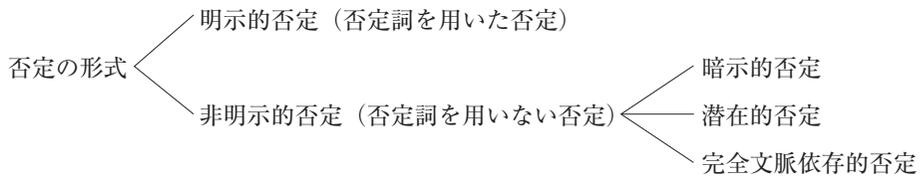
(A: 彼女はあなたのガールフレンドでしょう?)

(B: 彼女は私の妹です。)

15) の例文において B の発話 “她是我妹妹” (「彼女は私の妹だ」) は平叙文であるが、A の発話内容 (推測) 「彼女はあなたのガールフレンドだ」に対する否定として捉えられる。このような形式が否定の働きをするためには具体的な発話状況 (文脈) が不可欠である。よって本稿ではこういったタイプの否定を「完全文脈依存的否定」と呼ぶ。

これまで述べてきた内容を以下のように示す。

【形態的特徴による分類】



## 2. 否定の諸レベル

以上否定の形式について見てきたが、否定そのものについて考える場合、どのレベルにおいて観察するかという問題は重要である。つまり、否定を論理学のレベルで論じるか、それとも言語学のレベルで論じるかである。論理学と言語学はアプローチの角度が違い、また言語学のレベルにおいて考察する場合でも、統語論的、意味論的、語用論的というそれぞれ異なる視点からの捉え方がある。

### 2.1 論理学における否定

論理学は正しい推論とは何かを問題にする学問である。人間の思考活動においては、正しい推論によって導かれるものもあれば、一方感覚的、感情的なものによって導かれるものもある。そして言語学では推論自体が正しいか否かの区別をする場合とそうしない場合があるが、論理学は明確にその区別をするものである。つまり、論理学においてある立言には「真」と「偽」の二つの値しかない。従って否定について言えば、それは命題の真理値をひっくり返すものである。つまり  $p$  の否定は<sup>6)</sup>  $\sim p$  であり、 $\sim\sim p$  即ち二重否定は肯定になるのである。例えば次の例文のような場合、

16) 小王今天不来。

(王さんは今日来ない。)

論理学では「王さんは今日来る」という命題を「真」ではなく「偽」としている。しかし前掲の

9) 小王今天缺席。

(王さんは今日欠席だ。)

になると、文が表す意味内容（命題内容）は16)と同じであるものの、命題は「真」と見なさねばならない。論理学では16)のようなものは否定と見なすが、9)のようなものは否定と見なさない<sup>7)</sup>。

## 2.2 言語学における否定

言語学の分野では、9)のようなものも否定と見なす。16)は否定の意味を明示的に表しており、9)は否定の意味を暗示的に表していると見ることができるからである<sup>8)</sup>。暗示的とは、前述のように例えば“缺席”のような、語彙に否定的意味が内蔵されているものを指す。しかし、下記17)の場合、

17) 她没被学校开除。

(彼女は学校に除名されていない。)

文中の“没被学校开除”（「学校に除名されなかった」＝学籍が確保された）は否定的判断（あるいはネガティブな判断）ではない<sup>9)</sup>が、肯定として見なさない。従って、言語学における否定においてはそれが形態上の否定、つまり統語論的否定であるか、それとも意味上の否定、つまり意味論的否定であるかが問われることになる。

### 2.2.1 統語論的否定

統語論的否定は否定詞を用いた否定である。本稿で「明示的否定」と呼んでいるものがそれに当たる。統語論的否定はもっとも典型的な否定の手段であり、文の内部で決定され<sup>10)</sup>、文のどの部分を否定するかによって文（全体）否定と部分否定とに区別される。

現代中国語において否定に関するこれまでの記述では、こういった統語論的否定についての言及が多く見られる。

### 2.2.2 意味論的否定

意味論<sup>11)</sup>的否定は語彙レベルの否定と文レベル（つまり命題モダリティとして）の否定の二つが考えられる。語彙レベルの否定とは内在的に否定的意味を有する語彙と否定的意味を有する接辞による否定がある<sup>12)</sup>。本稿で「暗示的否定」と呼んでいるものは語彙レベルに当たる。後者、つまり否定的意味を有する接辞による否定とは、例えば“非营利”（「非利益的な」）の“非”のようなものを指す。

意味論的否定はまた否定詞による否定の意味解釈、つまり命題モダリティとしての否定を扱うが、意味論では文の表す命題内容を文の「真理条件」(truth conditions) とするため、意味論的否定は文の表す命題内容の「真理条件」に対する否定である。例えば、

18) 我有两台电脑。

(わたしはパソコンを2台もっている。)

において、文の「真理条件」は「わたしにパソコンが2台あること」である。そしてこれに対する否定文

19) 我没有两台电脑。

(わたしはパソコンを2台もっていない。)

は、“我有两台电脑”を「偽」とするが、否定のスコープは一つではなく、以下のようにいくつかの場合が想定される。

19) a 我没有两台电脑。我弟弟有两台电脑。

(わたしはパソコンを2台もっていないが、弟は2台もっている。)

b 我没有两台电脑。我只有一台。

(わたしはパソコンを2台もっているのではなく、1台もっている。)

c 我没有两台电脑。我有两台电视。

(わたしはパソコンを2台もっているのではなく、テレビを2台もっている。)

19) の a, b, c 三つの文はいずれも「わたしにパソコンが2台あること」に対する否定として捉えられる。

### 2.2.3 語用論的否定

言語学における否定は、語彙や文法レベルの問題に限らず複雑なものである。話し手と聞き手の情報のやりとり、即ち語用論の角度から見れば「命題、話者のアセスメント、聞き手へのアセスメントの点からして、それぞれ肯定的、否定的、中立的という立場がある」<sup>13)</sup>。前に挙げた 15) の例文をここでもう一度取り上げる。

15) A: 她是你女朋友吧?

B: 她是我妹妹。

(A: 彼女はあなたのガールフレンドでしょう?)

(B: 彼女は私の妹です。)

15) の会話において、B の発話は統語的にも意味的にも肯定である。しかし、語用論的に見た場合、15) B の発話「她是我妹妹」「彼女はわたしの妹だ」は(例文 15)においてのみ「彼女はわたしのガールフレンドではない」を意味し、これは A の推測「彼女はあなたのガールフレンドだろう」に対する否定として捉えられる。このように語用論的否定・肯定<sup>14)</sup>は発話場面における、話し手と聞き手の相対的關係で決まる。そして実際のコミュニケーションの場面において、相手への不同意のみならず相手の信じている現実とは違った現実を描写するものはすべて語用論的否定である<sup>15)</sup>と言える。

前にも述べたが、意味論的否定は文の「真理条件」に対する否定である。では語用論的否定は具体的に何に対して否定しているのか。太田(1980)によると、語用論的に見た場合、「否定は相手の依頼、要求を拒否するために用いられる場合もあれば、相手の意見に対する不同意を示す場合もある。ある表現の含意<sup>16)</sup>、前提<sup>17)</sup>を否定する場合もあれば、不適切な表現を訂正する場合もあるというように色々な用いられ方がある」<sup>18)</sup>。否定される命題、含意、前提などは広い意味で旧情報に属するが、この旧情報は会話において適切性条件(felicity conditions)<sup>19)</sup>の制約を受ける。語用論的否定はいわゆる旧情報の適切性に対する否定であると言ってもよいだろう<sup>20)</sup>。

従って下記 20) のように「明示的否定」も文の「真理価値」ではなく、旧情報の適切性に対して否定しているならば、意味論的否定ではなく、語用論的否定と位置づけたほう

が妥当である。

20) 甲：昨天晚上跟你在一起的那个女人岁数不小了吧？

乙：她不是什么“女人”——她是我妻子！（沈家煊 1993p321（1）による）

（甲「夕べお前と一緒にだった女、けっこう年いっているだろう？」）

（乙「彼女は女なんかじゃない——俺の女房だ。」）

20) の会話において、乙の発話“她不是什么女人”は「彼女が女性である」という文の「真理価値」に対する否定ではない。甲の発話“昨天晚上跟你在一起的那个女人”（「夕べお前と一緒にだった女」）から読み取れる「昨日奥さん以外の女性と会っていた」という含意に対する否定として捉えられる。つまり、“她不是什么女人”（「彼女は女なんかじゃない」）の“不”が否定しているのは“她是女人”（「彼女は女性である」）ではなく、甲の発話における“女人”の適切性である。従って20)における“不”は形態上「明示的否定」ではあるものの、意味論的否定ではなく、語用論的否定として捉えるべきである。

### 3. 「潜在的否定」とその位置付け

第2節まで否定の形式と否定の各レベルについて考察してきた。では本稿のはじめに提示した例文2)のような否定のタイプ、つまり「潜在的否定」はどのような形で、何を否定することができるか。この部分では具体的な言語現象を記述、分析した上で、中国語の否定というカテゴリーの中における「潜在的否定」の位置づけを明確にしたい。

#### 3.1 語彙的手段

「潜在的否定」は語彙的手段によるものが多く見られる。

14) A：对不起，我来晚了。

B：下这么大的雨，你还真来了。

（A：ごめんなさい。遅くなりました。）

（B：こんな大雨のなか、本当に来てくれましたね。）

21) 是你呀。我以为是小张呢。

（あなただったのですか。張さんだと思っていました。）

22) 张三白学了几年钢琴。

(張三はピアノを何年間か習ったが何の役にも立たなかった。)

23) 我这几天淨看书了。

(私はここ数日間本ばかり読んでいました。)

24) A: 你少喝点儿酒。

B: 行了, 都说过多少遍了!

(A: お酒は飲み過ぎないように。)

(B: もういいよ。何回言っているのよ。)

14) についてはすでに分析済みということで省略する。21) の例文をみよう。“以为”は人間の思考判断を表す動詞であり、日本語にすると「～と思う」にあたる。しかし“以为”を用いると多くの場合、単に主体<sup>21)</sup>の判断を表すことにとどまらず、話し手の発話時点において主体の判断が間違っていたことを表出する。即ち、例文21)のように、「私」(=判断の主体)の判断が間違っていたことを意味するが、これは明らかに自らの判断に対する否定である。

22) の“白”と23) の“淨”は共に副詞である。日本語に訳すと「むだに、なすところがなく」「～ばかり」になる。22) のように文中に副詞“白”がおかれると、後続する動作や行為の実行が実らなかったという否定的意味として解釈される。23) の文に現れている“淨”は、後にとる動作や行為のみが行われ、その他は実行していないという意味を含むことになる。

24) は中国語で「応答詞」と呼ばれているものである。文中の“行了”は眼前の動作・行為に対して「中止」を求める意味と機能があるため、進行中の動作・行為に対する否定として捉えられる。

このように中国語では動詞、副詞、応答詞などをもって主体の判断に対して否定したり、動作・行為の結果について否定したり、また言及する動作や行為以外について否定したり、眼前の状態について否定できるのである。紙幅の関係で例文を多く提示することはできないが、このほかにも「語気助詞」「疑問詞」等による否定が存在しているのである。

### 3.2 構文的手段

「潜在的否定」は構文的手段を用いる場合も多い。

2) A: 汉语真难。

B: 难什么难?

(A: 中国語は本当に難しいですね。)

(B: 何が難しいですか?)

25) A: 你认识她吧?

B: 我哪儿认识啊?

(A: 彼女を知っているでしょう。)

(B: 知るもんか。)

26) 你少说废话!

(でたらめを言うな。)

27) 他冲上前, 将那个人一拳打倒在地上, 恶狠狠地吼道: “你再碰她试试!”

(彼が駆けつけてきて, 拳でその人を地面に殴り倒し, 怒りに満ちた声で言った。

「もう一度彼女に触れてみろ。」)

2) と 25) は反語文である。反語文とは疑問文の形で話し手の態度を表出する文形式である。通常疑問文は情報の提供を求めることを主な機能とするが、反語文の場合、一つの否定方式として相手の発話内容を認めないという話し手の否定的態度を表す。25) について言えば、B が述べたいのは「私は彼女のことを知らない」だが、平叙文の代わりに反語文を用いると否定の語気がより強まる。

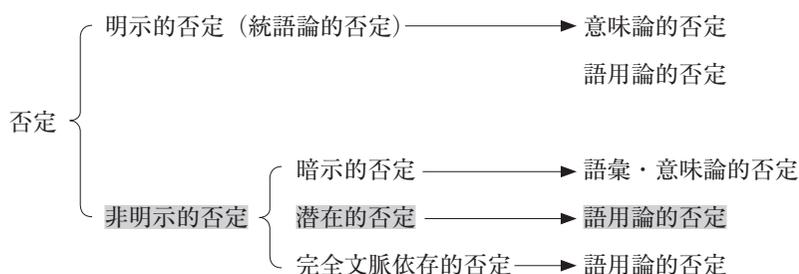
26) と 27) は共に禁止命令文であるが異なる点がある。26) の“少”はもともと「少ない」という部分否定の意味を持っている。しかし、部分否定は場合によって「～するな」という完全否定の機能を果たす。26) のように“少”に後続する“说废话”「でたらめを言う」が話し手にとって望ましくない、マイナス的動作あるいは行為であれば、“少”の働きは部分否定から完全否定へと転移する。完全否定は当然話し手の否定的態度を表出している。

一方 27) の“试试”を用いた命令文は「～(し)てみたら」と相手に勧めるときによく使われるが、時として「仮定」の意味解釈が優先される。この場合ある動作・行為のもたらす結果について話し手は既知であるが、相手はそれを把握していない、もしくは信じないということを前提とする。27) に照らして言うと、“他”(「彼」)は相手に「もう一度彼女に手を触れてみろ」と発話しているが、伝達しようとする内容は「これ以上彼女の手を触れたら許さんぞ」である。“试试”を用いた命令文は話し手が相手に対し、当該動

作・行為を実行してほしくないために、相手に危害を加える様子を見せた「威嚇」に用いることができる。

このように中国語において「潜在的否定」は語彙的手段と構文的手段の二つがあり、それぞれ相手の発話内容や聞き手の動作・行為、話し手自身の判断、ある発話の前提などに対して否定し、眼前の状態に対する否定的態度を表すことができるのである。また「明示的否定」より「潜在的否定」のほうが否定の語気がより強い。ゆえに、「潜在的否定」は意味論的否定ではなく、次に示すように語用論的否定として位置づけられる。

#### 【「潜在的否定」と否定の関係図】



言語学における否定は多種多様である。否定詞による否定もあれば、否定詞によらず、別の文法的手段による否定もある。現代中国語におけるこれまでの否定に関する研究は否定詞を用いた否定、いわゆる本稿で「明示的否定」と呼んでいるタイプを中心として行われてきた。しかし、言語の機能的側面、つまり人間の伝達活動における情報のやりとりが注目を浴びるにつれて、「潜在的否定」のような否定形式に対する考察とその否定を究明することは一つ新しい観点からの考察とも言えよう。

## 4. 言語類型論の視点から

言語は普遍性と個別性の二つの側面を有する。普遍性とは人類の言語に普遍的に共通する特性を指し、個別性とはそれぞれの言語の有する特異性を指す。言語研究においては、ある一つの言語についての記述と解釈は、世界の諸言語の中の一つとして見る視点が必要とされる。

本稿で考察した「潜在的否定」は日本語と韓国語にも実際見られる。例えば反語文は中国語、日本語、韓国語いずれの言語にも存在する。筆者はまず中国語と日本語の対応状況

## 中国語の否定について

を見るため、中国の現代作家である老舎の作品『茶館』とその日本語版を調べた。調査結果は以下の通りである。

《茶館》 老舎原著	29 (反語文)
『茶館』 沢山晴三郎訳	20 (反語文)

このデータから中国語の反語文は日本語にだいたい対応していると思われる。

一方韓国語と中国語の対応を見るため、韓国のテレビドラマ「冬のソナタ」とその中国語訳版を調べた。結果は以下の通りである。

「冬のソナタ」 韓国語版	25 (反語文)
「冬のソナタ」 中国語訳版	25 (反語文)

中国語と韓国語もほぼ一致する。一方他においては対応しないものもある。

例えば“以为”は話し手の発話時点より前の段階において主体の判断が行われているが、話し手の発話時点においてその判断内容が不成立であることを表すものである。日本語では「と思っている / と思っていた / 思った」に訳されるのが一般的である。

- 28) 我以为你已经回家了呢。  
(あなたがもう家に帰ったと思っていた。)
- 29) 他以为你生他的气了呢。  
(彼はあなたが怒っていると思っている。)
- 30) 我以为他会来。  
(彼が来る思った。)

28) 29) 30) における“以为”はそれぞれ「と思っていた」「と思っている」「思った」に訳されているが、日本語訳を見ると、それぞれの文は判断内容の不成立という否定的解釈以外に、判断内容の成立という肯定的解釈も可能である。これはつまり、日本語において「と思っていた / と思っている / 思った」はただ主体の判断が発話時前に行われているというアスペクトマーカとしての働きをもっていると言えよう。しかし中国語において主体の判断内容が現実の世界において成立した場合、“以为”の使用は31)の例文が

示すように不自然である。

31) こういう日が来ると思っていました。

(我一直认为会有这一天。)

(?我一直以为会有这一天。)

例文が示すように判断内容が現実において成立した時は“认为”を用いる。

では韓国語の場合はどうだろうか。“以为”は韓国語では「~인 줄 알았다」にあたる。李宗和 2002 では、韓国語の「~인 줄 알았다」は、主体が判断した事柄が成立しておらず、話し手が自分の判断が間違っていたことを認識した上での発話に用いられると指摘されている。これは“以为”の使用条件とほぼ一致している。

32) 我以为他会来。

(그 사람 오는 줄 알았어.)

そして判断内容が現実の世界で成立した場合、例文 31) に示すように中国語の“认为”の意味に当たる「생각하다」を用いて表す。

33) こういう日が来ると思っていました。

(我一直认为会有这一天。)

(이 날이 꼭 오리라 생각하고 있었어.)

こうして見ると中国語の否定の一方式である「潜在的否定」は日本語にも韓国語にも存在すると言ったことができよう。ただ対応しない言語現象もあることからそれぞれの多様性もあることは言うまでもない。さらなる考察は今後の課題としていきたい。

#### 注

- 1) 本稿においては、特定の文脈で実際にその文を使うことをその文を「発話」するというにす  
る。
- 2) 本稿は情報交換行為における否定がテーマである。引用例文及び作例の中で話し手と聞き手の交  
替が多い。以下では、考察対象とする形式を含む文を発話している人物を「話し手」とし、そのよ

## 中国語の否定について

うな形式を含む発話が向けられる人物を「聞き手」とする。なお「相手」という呼び方は「聞き手」という言い方では紛らわしい場合に限り用いることとする。

- 3) 英語では例えば否定代名詞の *nobody, nothing* などもある。
- 4) このような否定のタイプは石毓智 1992 でも指摘されている。石毓智 1992 は否定的意味が内蔵されている語彙と反語文などを一括して“隠性否定”としているが、本研究ではそのような扱いをしない。否定的意味が内蔵されている語彙による否定は意味論的否定であり、反語文は語用論的否定であるため、否定のレベルが違う。
- 5) 想定とは、真である事実として蓄えられた命題を指す。Sperber and Wilson 1986 による。
- 6) ～は否定を表す。
- 7) 論理学では否定のオペレータがあるかどうかが決め手となる。
- 8) 山田 1997 (Bacri, N. 1976: *Fonctionnement de la négation*. Mouton) 参照。
- 9) “开除”(除籍)は語彙的に否定的判断であるが、“没被开除”は「除名されなかった」という意味を表すため、ポジティブな判断になる。
- 10) 山田 1997 (Brütsch, E. 1986: *Was heißt hier NEGATIV? Zeitschrift für germanistische Linguistik* 14 pp. 192-226) 参照。
- 11) 池上 1975, p. 32 によると、言語の意味構造は、語彙におけるもの、語におけるもの(類似性および差異)、文におけるものの三つが挙げられる。
- 12) 太田 1980, p. 661 参照。
- 13) 山田 1997, p. 42 参照。
- 14) 統語論的否定・肯定と語用論的否定・肯定の相違点について山田 1997 によると Brütsch, E. 1986 : *Was heißt hier NEGATIV? Zeitschrift für germanistische Linguistik* 14, pp. 195 では次のようにまとめられている。

統語論的否定	否定要素があり否定機能を果たす
統語論的肯定	否定要素がなく否定機能も持たない
語用論的否定	否定要素はないが否定機能をもつ
語用論的肯定	否定要素があるが肯定機能をもつ

- 15) 山田 1997 参照。
- 16) 含意は命題と命題の関係を表す。そしてどのレベルにおいて見るかによって見方も違ってくる。論理的レベルで見た場合、命題 p が命題 q を論理的に含意するとは、p が真のとき、q も必ず真になる場合であり、そしてその場合に限られる。論理的含意は命題の真偽を問題にしない。意味論的含意も論理的含意のように p が真であれば、q も真であるが、演繹規則によるのではなく、実質的な意味内容をもった記述語によるものである。語用論的含意はコンテキストに依存して決定される。そして語用論における含意とは話し手と聞き手の間の協力関係に関するものである。
- 17) 前提とは文を適切に発するのための条件である。語用論的前提は論理的前提とは異なる。語用論的前提は具体的な文にこうした前提があるというのではなく、話し手がある文を発する時に、こうした前提を持つということである。この場合、ある命題 p が前提をなすというのは、必ずしも p が現実の世界で真であることを要求せず、話し手が p の真であることを仮定するだけでもよい (Keenan, 1971)。語用論的前提は真理価値ではなく、適切性の条件に結びつく。従って語用論的前提は否定できる。前提を語用論的に解すれば、実際の伝達場面で話者、聴者がどのような方法で伝達

- を成功させているかについて一般的な仮定に基づいて説明が出来る可能性が生ずる（太田 1980）。
- 18) 太田 1980, p. 277 参照。
- 19) ある文の発語内の力 (illocutionary force) が効果を発揮するならば、その発語はうまい (happy) とか適切 (felicitous) であると言われる。もしそれが何らかの理由でしくじったならば、それはまずい unhappy あるいは不適切 infelicitous なのである。ある特定の発語ないし行為がうまくいくかどうかを決定する大きな要因はこのような適切性条件である。
- 20) 沈家煊 1993 でも語用論的否定は「発話の適切性」に対する否定であるとしている。
- 21) 判断の主体が同時に話し手である場合とそうでない場合がある。

## 参考文献

### [中国語文献]

- 戴耀晶 2000. 〈试论现代汉语的否定范畴〉, 《语言教学与研究》第 3 期, pp. 45-49
- 房玉清 1992. 《实用汉语语法》. 北京语言学院出版社
- 郭继懋 1997. 〈反问句的语意语用特点〉, 《中国语文》第 2 期, pp. 111-121
- 何一寰 1966. 《“以为”在古籍中的用法》, 《中国语文》第 1 期
- 蒋琪·金立鑫 1997. 〈“再”与“还”重复义的比较研究〉, 《中国语文》第 3 期, pp. 187-191
- 李行健主编 1998. 《现代汉语规范字典》. 语文出版社
- 刘月华等 1983. 《实用现代汉语语法》. 外语教学与研究出版社
- 陆俭明·马真 1985. 《现代汉语虚词散论》. 北京大学出版社
- 陆俭明 1993. 《现代汉语句法论》. 商务印书馆
- 吕叔湘 1980. 《现代汉语八百词》. 商务出版社
- 1982. 《中国文法要略》. 重印本, 商务印书馆
- 1985. 〈肯定·否定·疑问〉, 《中国语文》第 4 期, pp. 241-250
- 1985. 《近代汉语指代词》. 学林出版社
- 马清华 1986. 〈现代汉语里的委婉否定格式〉, 《中国语文》第 6 期, pp. 437-441
- 马希文 1985. 〈跟副词“再”有关的几个句式〉, 《中国语文》第 2 期, pp. 105-114
- 邵敬敏 2000. 《汉语语法的立体研究》. 商务印书馆
- 邵敬敏·赵秀凤 1989. 〈“什么”非疑问用法研究〉, 《语言教学与研究》第 1 期, pp. 26-40
- 沈家煊 1993. 〈语用否定考察〉, 《中国语文》第 5 期, pp. 321-331
- 1999. 《不对称和标记论》. 江苏教育出版社
- 石毓智 1992. 《肯定和否定的对称与不对称》. 台湾学生书局
- 唐启运·周日健主编 1989. 《汉语虚词字典》. 广东人民出版社
- 王还 1992. 《汉英虚词字典》. 华语教学出版社
- 王力 1985. 《王力文集 第二卷》. 山东教育出版社
- 杨淑樟 1985. 〈副词“还”和“再”的区别〉, 《语言教学与研究》第 3 期
- 殷志平 1995. 〈“X 比 Y 还 W”的两种功能〉, 《中国语文》第 2 期, pp. 105-106
- 于根元 1984. 〈反问句的性质和作用〉, 《中国语文》第 6 期, pp. 419-425
- 袁毓林 1993. 《现代汉语祈使句研究》. 北京大学出版社
- 2000. 〈论否定句的焦点、预设和辖域歧义〉, 《中国语文》第 2 期, pp. 99-108

## 中国語の否定について

- 赵元任著 丁邦新译 1980. 《中国话的文法》. 中文大学出版社  
周刚 1999. 〈表示限定的“光”“仅”“只”〉, 《汉语学习》第1期, pp. 12-16  
朱德熙 1981. 《语法讲义》. 商务印书馆

### [日本語文献]

- 相原茂 1993. 「“你明天再来吗?” の非文法性」, 『大東文化大学語学教育研究所 10 周年記念現代中国語文法研究論集』. 大東文化大学語学教育研究所, pp. 70-80  
相原茂監訳 1996. 『現代中国語文法総覧』. くろしお出版  
安部桂子 1999. 「命令文の語用論」, 『語用論研究』No1, pp. 29-43  
池上嘉彦 1975. 『意味論』. 大修館書店  
井上優 1993. 「発話における「タイミング」と「矛盾考慮」——命令文・依頼文を例に——」, 『国立国語研究所 研究報告集』No14, pp. 333-360  
太田朗 1980. 『否定の意味』. 大修館書店  
大西智之 1991. 「“好什么”と“有什么好”」, 『中国語学』No238, pp. 1-10  
小野正樹 2000. 「「と思う」述語文の情報構造について」, 『文芸言語研究・言語編』No38, pp. 57-70.  
河上誓作 1998. 「アイロニーの言語学」, 『待兼山論叢』第32号, pp. 1-16  
郭雲輝 (未刊行) 「部分否定」と「全部否定」  
川端元子 2000. 「聞き手への行為要求表現と程度副詞——共起制限理由の再検討——」, 『名古屋大学国語・国文学』No86, pp. 64-78  
木下恭子 2001. 「比較の副詞「もっと」における主観性」, 『国語学』第52巻2号, pp. 16-29  
定延利之 2001. 「探索と現代日本語の「だけ」「ばかり」「しか」\*」, 『日本語文法』1巻1号 pp. 111-136  
澤田治美 1993. 『視点と主観性——日英助動詞の分析——』ひつじ書房  
張健華 1998. 『日中語の限定表現の研究——「だけ」「ばかり」「しか」と“只”“淨”を中心に——』. 徇文社  
中桐典子 1997. 「“比”構文における“更”と“还”」, 『お茶の水女子大学中国文学会報』No16, pp. 1-14  
林奈緒子 1997. 「程度副詞と命令のモダリティ」, 『日本語と日本文学』No26, pp. 1-10  
原由起子 1992. 「“还”と時間副詞——日本語との比較から——」, 『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』, pp. 83-111 くろしお出版  
益岡隆志編 1993. 『日本語の条件表現』. くろしお出版  
丸尾誠 1999. 「“还”の連続性・“再”の非連続性」, 『言語文化論集』第Ⅱ巻第2号, pp. 199-212  
毛利可信 1980. 『英語の語用論』. 大修館書店  
森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 2000. 『モダリティ』(日本語の文法3). 岩波書店  
森山卓郎 1989. 「応答と談話管理システム」, 『阪大日本語研究』No1, pp. 63-88  
竹林 滋・横山一郎共訳 (H. A. グリンスン著) 1970. 『記述言語学』. 大修館書店  
木下裕昭訳 (ジェラルド M. セイダック著) 1995. 『発話行為の言語理論へ向けて』. 文化書房博文社  
山田小枝 1997. 『否定対極表現』. 多賀出版

- 山梨正明 1986. 『発話行為』(新英文法選書第 12 卷), 大修館書店
- 李宗和 2002. 「「(〜と) 思う」について——日韓対応」, 『研究年報』日本エドワード・サビア協会 No16, pp. 41-54
- 李貞愛 2002b. 「副詞“淨”について」, 『中国語学』No249, pp. 181-195
- 平松圭子他訳(劉月華著) 1992. 『中国語の表現と機能』, 好文出版社

[欧文文献]

- Halliday, M. A. K. 1985. *An Introduction to Functional Grammar*. London: Edward Arnold.
- Keenan, Edward L. 1971. "Two kinds of presupposition in natural language." Fillmore Langendoen (eds.) 44-52
- Jacobson, R. 1939. Zero sign. In Waug & Halle
- Levinson, S. C. 1983. *Pragmatics*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Searle, J. R. 1969. *Speech acts*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Sperber, D. and D. Wilson. 1986. (内田聖二・宋南先・中達俊明・田中圭子訳 1999) 『関連性理論——伝達と認知——』東京: 研究社
- Trubetzkoy, N. S. 1931. *Diephonologischen*. *Travaux du Cercle Linguistique de Prague* 4.